

令和2年度第1回東三河南部構想区域地域医療構想推進委員会 会議録

- 1 日時 令和2年9月9日（水） 午後2時から午後3時まで
- 2 場所 東三河県庁
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 傍聴人 8名
- 5 議題
 - (1) 公的医療機関2025プランに準じた事業計画（案）について
 - (2) 非稼働病棟を有する医療機関に対する推進委員会の方針に基づく対応（案）について
- 6 報告
 - (1) 本県における地域医療構想の推進に向けた今後のスケジュールについて
 - (2) 令和元年度病床機能報告の結果について
 - (3) 委員会で承認を得た事業計画進捗状況について
- 7 会議の内容
 - (1) あいさつ（豊川保健所長）
 - (2) 委員長の選出について
委員の互選により、山本委員が委員長に選出された。
 - (3) 会議の公開・非公開について
開催要領第6条第1項に基づき、議題1、議題2、報告事項3については非公開とし、報告事項1、報告事項2については公開とした。
 - (4) 議事内容
【議題1】 公的医療機関2025プランに準じた事業計画（案）について
非公開

【議題2】非稼働病棟を有する医療機関に対する推進委員会の方針に基づく対応（案）
について

非公開

【報告1】本県における地域医療構想の推進に向けた今後のスケジュールについて

（ア）事務局説明（豊川保健所 川口次長）

本県における地域医療構想の推進に向けた今後のスケジュールについて、本来であれば、愛知県保健医療局医療計画課の担当職員から説明するところではあるが、本日は都合のため、豊川保健所から説明する。資料3をご覧ください。

本県における地域医療構想の推進に向けた今後のスケジュールとしては、基本的には、昨年度までと同様の各取り組みを継続していき、2025年に向けた各医療機関の具体的対応方針の策定に向けた取組を継続していくこととしている。本日の委員会では、このうち、公的医療機関2025プランに準じた事業計画案と非稼働病棟を有する医療機関の今後の方針について協議をさせていただいた。

今年度の新たな取組としては、資料真ん中より少し下あたりに、外来医療計画に関する記載がある。外来医療計画については、昨年度、委員の皆様にご意見を伺い、今年3月に策定・公示をさせていただいた。本来であれば、4月以降、外来医療計画の推進に向けた取組を開始していく予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、現在、取組がストップしている状況である。今後については、感染症の感染拡大状況を見ながらということになるかと思うが、年度内には、地域で不足する外来医療機能や医療機器の効率的な活用に関する検討を、スタートさせていきたいと考えている。

（イ）質疑応答

質疑なし。

【報告2】令和元年度病床機能報告の結果について

（ア）事務局説明（豊川保健所 川口次長）

令和元年度病床機能報告の結果について、こちらについても、愛知県保健医療局医療計画課に代わり、豊川保健所から説明する。資料4-1をご覧ください。

こちらは、令和元年度病床機能報告結果を整理したものである。資料の上段が令和元年度の病床機能報告の状況、資料の下半分については、参考として、平成30年度の報告結果をそれぞれ示している。

それぞれ、左右に表があるが、左側が報告年度7月1日時点の状況、右側が2025年7月1日の機能の予定を集計したものである。

東三河南部構想区域の状況だが、左上の表をご覧くださいと、前年に比べて76床病床数が減少している。

この表の詳しい内訳として、資料4-2をご覧くださいと、医療機関毎の情報を記載している。

個々の医療機関についての説明は、時間の都合もあるので、省略させていただく。

続いて、資料4-3、4-4をご覧ください。資料4-3については、病院の各病棟の状況を掲載しており、資料4-4については、有床診療所の状況を掲載している。資料4-3、4-4ともに、資料の後半部分に、参考として前年度の状況を付けている。

こちらも時間の都合もあるので、本日は説明を省略させていただくが、内容に疑義等があれば医療計画課または豊川保健所まで問い合わせいただきたい。なお、病院の個票については、国から最終版のデータ送付がされていないことから、まだアップロードされていないが、最終的には医療計画課のホームページに例年どおり掲載させていただく予定としているので、よろしくお願ひしたい。

また、令和2年度の病床機能報告については、新型コロナウイルス感染症対応下であるため、医療機関の負担軽減を図る観点から、レセプト情報による診療実績の報告を求めないことが決定されているが、その他の項目については、昨年度と同様の内容について報告をする必要があるため、報告対象の医療機関においては、国から案内があればご対応の程、よろしくお願ひしたい。

(イ) 質疑応答

○豊橋市民病院 加藤委員

病床機能報告の2025年の見込みの数字のところ、地域医療連携協議会でこの資料を配布したところ質問があった。誤りがあるのではないかと指摘があった。

2025年7月の時点で急性期病床が285床増加するとなっているが、誤りではないかと思う。再度調査してほしい。急性期病床数は変わらないと思うので、確認をお願いしたい。

○事務局（豊川保健所 川口次長）

医療計画課と連携し、再度チェックを行いたい。

【報告3】 委員会で承認を得た事業計画進捗状況について

非公開

【その他】

(ア) 地域医療連携協議会の報告（豊橋市民病院 加藤委員）

地域医療連携協議会の報告をする。今回は感染症のことがあるため、書面でアンケート調査を実施した。新型コロナウイルス感染症が大きな社会問題となり、いろいろな病院が感染症対策に追われている中で、一方で、地域医療構想では急性期病床が過剰であるため、若干減らさなければいけないという、この2つの問題をこの感染症を受けてどのようにお考えかというアンケートを行い、いくつかのご意見をいただいた。

急性期病床に少し余裕があったことによって、コロナウイルス感染症の患者を受け入れることができたという感想を述べている病院が多かった。目標どおりに減らしてしまっただけで余裕がなくなると、このように不測の感染症が起きたときに困るのではないかという懸念も出された。

このようなことを勘案して地域医療構想を進めていただきたい、急性期や回復期などと病床機能報告をするが、不測の事態の時には、機能を変換できるシステムを作っていただきたい、というような意見があった。

慢性期病床が一番過剰で問題だが、本日出された病床機能報告を見ると、若干減りつつある。2025年にももう少し減るが、劇的には変化していない。こういったところがどのように変換しているのかはわからないが、おそらく介護医療院が多いのではないかと思う。回復期病床へグレードを上げるということをお考えの病院や、地域包括ケア病床にする方法もあるので、慢性期病床を全部介護医療院にという方向ではなく、回復期病床にグレードを上げる方向にもなるのではないかという意見もあった。

急性期病床のあり方として、多少余裕があった方がよいのではないかという意見と、慢性期病床について、いろいろな方向で変換を考えた方がよいのではないかという意見と、この2点を協議会からの報告とする。

(6) 閉会